

令和5年度 事業報告

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、市内観光地では徐々に賑わいを取り戻す動きが見られた。しかしながら、市内主要観光地はコロナ前の水準までの回復には至っておらず、観光関連産業は新型コロナウイルス感染症の長引く影響に直面する一年であった。

新型コロナウイルス感染症を経て生活様式の変化、円安に起因する物価高騰を受け観光客の志向が変化しつつある。このような状況の中、一般社団法人名張市観光協会（以下、「観光協会」という。）では、継続してSNSやホームページによる情報発信に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様にリアルイベントに出展し、市内外に向けて名張市の魅力を発信することにより市内への誘客を図った。また、観光関連事業者のDX化支援の一環としてGoogleビジネスプロフィールの積極的な活用に取り組む等、旅行者ニーズに応じた取組を事業者が戦略的に行うための支援を重点的に実施した。

I 公益事業に関わる事業

1 観光まち歩き事業

(1) 「ボランティアガイドと歩こう」の開催

開催日	テーマ等	実参加者数
4月3日（月）	「信長も来た城跡・堤防の桜並木」 （約7km）	63人
5月8日（月）	「名張の入口初瀬街道」 （錦生～赤目）（約8km）	45人
6月12日（月）	「夏見廃寺と古代のロマンを訪ねて」 （約4km）	40人
9月25日（月）	「初秋の初瀬街道」 （赤目～名張）（約5km）	48人
10月23日（月）	「川西・梅が丘地域の文化と歴史を巡る」 （約5km）	51人
11月20日（月）	「国津の社寺と紅葉を巡る」 （約7km）	38人

(2) ボランティアガイド「おきつも」の活動支援

ボランティアガイド「おきつも」の事務局として、次の取組を行った。

○定例会への参加（毎月第3木曜日）

観光資源の発掘、観光誘客を推進する観点から定例会に出席し、活動内容を共有しガイドとの緊密な連携に努めた。

○研修会の実施

・ボランティアガイド養成講座

「おきつも」のガイド（受講対象者13名）のスキル向上の一環として、講義及び実地形式の講座を計6回実施。